松井田に
ゆかりの人物

平成元年7月21日

ふるさと塾

（嶋村次雄）

松井田にゆかりのある人（順不同）		
松井田地区	○竹本 素行（女義大夫名人） ○村山初太郎（漢学者 町長） ○渡辺 三郎（鉄鋼界の先進） ○小板橋又治（実業家・政治家） ○小山 長四郎（経済人・実業家）	○小峰 柳太（実業家・国会議員） ・新井 守村（国学者） ・大河原源五郎（町長） ・篠原誠一郎（軍人）
臼井地区	○中島 墨堂（画家） ○中島 長吉（教育者） ○高見沢みねじ（峠の釜めし） ・猿谷吉太郎（軍人）	・関 綱吉（博徒）
坂本地区	○仁井田確徳（俳人） ○佐藤 夕子（教育者・佐藤学園創設） ○武井理三郎（日銀で活躍） ○上原 虎重（元毎日新聞重役） ○佐藤 袈裟吉（わさび栽培先駆者）	・市川岸郎 ・佐藤 学（教育者）
西横野地区	○新井高四郎（養種改良） ○飯野 喜理（弓の名人）	・松本松三郎
九十九地区	○曇嶂和尚（中世末期傑僧） ○磯貝 雲峰（詩人） ○横田 桃水（童話作家）	
細野地区	○風外 和尚（中世末期名僧） ○上原 杏弥（地域開発） ○岩井 重遠（学者・和算家）	・山田城之助（博徒） ・柏木義円（安中）

風外和尚　名僧

- 細野郷土塩「入り」原田家に生まれる（永禄11年 1568 推定）
  戦国時代末期室町時代 信長入京の頃
- 生い立ち　4才 慈母死．継母くる．　乾忠寺（三ッ室曹洞宗）の小僧となる
  8才頃 親寺の上後南長源寺へ．
  その後 白井村の双林寺の学僧となる．　雲水となり諸国修業の旅へ．
  一度生家を訪れたが継母冷たく．二度と細野に帰らなかった．
- 禅僧として衆人の敬慕をうけ 相模国曹洞宗成願寺の住職におされた．
  成願寺を数年で辞し 伊豆国我山の岩窟で穴居生活に入る．
  その後は湘南の山々を転々．更に西へいく．
- 晩年　遠江の国 浜名湖畔の金指郷に草庵を結ぶ．
- 終わり．　土中に穴を掘らせ．埋めさせ．念仏を唱えつつ入寂した．没年 不明
- 神奈川県平塚の文化財調査員．風外の作品に触れた美術家により．その人となりの立派なこと．遺された作品の芸術的価値により名僧として世に見直される．
- 郷土細野の研究家 上原岩五郎氏等により 風外の墓を生家の墓地に移す．
- 生家の原田家は現存　風外のかいた「達磨」の墨画 保存．

畳嶂和尚（ぢょうしょう和尚）　名僧

- 下墻田村笠張の小林家の出．　（天正2年 1574）　風外より六年後輩．
  戦国時代末から安土・桃山・江戸時代初期へ
- 安中市小林荘吉氏所蔵の「畳嶂語録」より．
  父 小林美濃守直高（信玄の弟の従臣）　母（諏訪頼貞の女）　その六男　幼名 京良
  天正10年（1582）3月 武田氏滅亡　父 天目山で戦死
  9才の時から漂泊の身となり．　母の親戚望月村 → 吾妻郡大戸郷へ →
  最後に下墻田村へ転居 定住（天正12年 1584 11才）
- 出家　松井田町貞松山崇徳寺西堂和尚の室に入る．
  修業6年　天正19年（1591）18才 諸国修業の旅に出る．
  武蔵国・信濃・尾張・遠江・駿河国 ……
  下野国 宇都宮の興禅寺で物外和尚に師事．修行して悟りを開く．
  法印証　興禅寺の二世住職として宗務に当る．　畳嶂の号
- その後　西堂老師の要請で松井田崇徳寺へくる
  殿堂建立造営の功 朝廷より紫衣を賜わる．　落成開堂の儀式（元和年中）
  その翌年 再び崇徳寺類焼　庫裡再建 …… 安中奉行所の許可を得て流木をもって客殿一宇．その他付属建物造立
- 寛永11年（1634）8月　興禅寺の住職となる …… 崇徳寺は達伝に託す．
- 最後は　高崎村の長松寺にて余生を終る．没年正保4年（1647）8月5日 74才

仁井田雄嶺　俳人

- 坂本宿中宿（中村屋）安永9年（1780）生
- 天保元年（1830）春秋庵白雄の遺稿集発刊に際し編者名中村雄嶺と記してある。
- 俳号　雄氷嶺に由来している。

  師の常世田長翠（ところだ）の初号 部久裳（つくも）にちなんで九十九坊・昨日庵とも号す。

  後年 長翠師の歿後 小裳庵を継承する。
- 当時の坂本　天明 寛政の期に街道文芸として俳諧の普及発達

  本陣・旅籠・商家の旦那……馬子 飯盛女まで発句流行
- 坂本出俳人　市川梨翁・永井夏鷗・佐藤楓車・市川蓬之・武井幸右衛門

  永井善左衛門・金井中和（刎石茶屋）佐藤峰鳥など輩出。
- 長翠門への入門　雄嶺20才　長翠の小裳庵（本左）まで通う。

  句作の方法論・添削・点評・発句の句合わせ（句会）

  歌仙の手合わせなど……俳諧の作事について学ぶ
- 長翠の奥州の旅に同行　酒田にいく。　江戸に帰って小裳庵二世を名乗る。

  文政3年 酒田に墓参・追善集……上毛俳壇に俳風を伝える。
- 弘化3年（1846）歿　享年67才　「明る夜をかくす雲なし 時鳥」辞世

  雄嶺の句　数の燈夜はみほとけの五日晴

  遠山のみゆるうち降る時雨かな

  さびしさのはじめは嬉し露の玉

  一つでもなく時は鳴蛙かな。

中島墨雲　画家

- 五料村　文政6年（1824）7月22日生　本名 安五郎
- おし　頭がよい。器用。やさしい。若い頃から絵筆をもつ
  - 仏画が得意（仏画は落款を入れない）
  - 蔦蔦の絵
    - 新幅 飯沼家所蔵 半切 淡彩の作品
    - 五料の中島料所蔵 六枚双の屏風絵
    - 飯沼家 袋戸棚の四枚つづきの山水
    - 五料中木 猿谷家の恵比須大黒の対幅
- 歿年　明治22年（1889）6月17日　67才

  五料坂の上、山岸に入る踏切の手前には墨雲の碑あり

  碑文は 原市五十貫・沙堂　建立 大正5年8月

岩井重遠　名は右内　号 湛々・白湾　和算の大家

- 群馬郡金井淵村 五十嵐森左衛門正統の三男（文化元年9月25日（1804））
- 6才 父死別　7才 母死別　10才 伯父も死
- 7才 板倉の小野栄重に和算を学ぶ
- 文政5年（1822）江戸へ　和算家 白石長忠．朱子学者 古賀侗庵に師事．
- 文政10年（1827）23才　新井村 岩井鍋次郎のむすめ「あさ」と結婚．4代 友之丞龍名
- 文政11年（1828）長男 重賢（号 雪洞）誕生．水澤観音堂に算額奉納
  碓氷峠熊野神社へ算額奉納．八幡村八幡宮へ．
- 文政13年（1830）妙義神社へ奉納．白石長忠によって「算法雑俎」出版
- 天保5年（1834）八幡八幡宮．高崎清水観音へ奉納
- 天保8年（1837）「算法円理永釈」上下巻 出版
- 嘉永4年（1851）「中江藩樹文武問答」翻刻
- 安政2年（1855）五料名主中島平兵衛（古東）の桃木澤に郷学校「桃溪書院」設立
  重遠（学校作事）　重賢（学校教授役）
  新井村私塾に岩井学校を設ける。　52才
- 安政4年（1857）「棄児収養論」著
- 慶応2年（1866）「さんいく和讃」著　間引を戒めた．
- 慶応4年（1868）「打毀し」騒動　3月2日 建物こわされ 質物証券焼かれる
- 明治5年（1872）熊野神社へ算額奉納　62才
- 明治8年（1875）4男 雅重 教員免許．岩井学校と松枝学校の教員となる．
- 明治10年（1877）73才　隠居生活に入る
- 明治11年（1878）6月22日 歿 享年 73才
- 大正6年（1917）重遠功績碑が補陀寺に建てられた．

竹本素行　女義大夫の名人

- 松井田新堀 市川林三郎の二女（文政元年（1860））生　本名 市川みか
- 15才の頃．上京　芸にうちこむ　修業して高座に上がる．
  当時 小清・昇菊・昇之助・呂昇 など女義昇盛．アイドル
- 結婚 医師の原田家に嫁ぐ．二男一女あり　「伽羅先代萩」得意 名人芸
- 老後 楽焼き　ひょうたんを焼く　素行の前芸名「瓢」ヒサゴ
- 昭和5年 歿 70才 両国回向院葬．
- 女「きむ」九条武子・柳原白蓮と並んだ佳人．　林流の舞踊家元 林きむ
- 二男 林太郎の子 俳優「藤田まこと」

上原 李弥　　地域開発（李弥街道）

- 上増田村室の木一番地旧家　天保3年1月1日生
  特に教学にきをみせ（算器が残ってる）　長じて戸長 村長として村のためにつくす。
- 明治初期（戸長の頃）の群馬県では 政府の殖産興業の方針に従って、産業に力をいれていた。
  道路開通整備……明治6年10月30日に布達（県史第三巻政治部工業）
- 新しい道　1. 前橋より熊谷まで馬車開通（M6）
  2. 上増田より大笹まで（M7）（李弥街道）
  3. 上野越後国界清水越（M7）
  4. 吾妻郡須賀尾村から信州沓掛まで（M8）　5. 室田村より信州道まで（M8）
  6. 甘楽郡栖原村より信州佐久大日向村まで（M8）　7. 入山より信州道分へ（M7）
  8. 吾妻郡田代村より信州沓掛へ（M8）　9. その他 10数本
- 県の方針「大笹より上増田村を通り原市村へ抜け中山道につながる道路を開通する」
- 李弥氏は村の将来や利益を考え村民を鼓舞して新道の開さくにあたった。
- 上増田村は関所改め村で山林と入会山の監視をする村だった（江戸時代）ので、明治になってこの新道づくりを先頭に立って行う立場に置かれたのである。

この道のことが「群馬県歴史」には次のように記されている。

新道開鑿

第七大区十二小区上野国碓氷郡上増田村外九ヶ村地内旧道修補、明治六年九月着手、同七年八月落成、経費金弐千五百二拾九円五拾六銭

右ハ上野国碓氷郡上増田村ヨリ吾妻郡大笹村迄旧路ノ里程九里ナリ。往古ハ此道ヨリ北国ヘ通行ナシタルニ、朝榎武門ニ帰セシヨリ、要害ノ為メ関ヲ構エテ通路ヲ断チシ其兵馬ノ余習旧藩府ノ治世ニ至テモ開路ヲ免サス、棘蔽塞数百年間徒ニ通行ヲ廃シ、人民ノ不幸タリシモ図ラス。今日ノ聖世ニ際シ修道ノ土功ヲ着手、速ニ功ヲ竣シ上信両国物産互市ノ便ヲ得ルニ至ル。

この道筋は、松井田城攻めの時まで使われていて、真田・吾妻勢はここを通ってきたといわれる。江戸時代には高崎を過ぎた豊岡から里見を通り室田、三ノ倉、大戸、大笹を抜けて吾妻から信州上田へ通じる「信州街道」があった。上田から長野の善光寺・松代・須坂・飯山方面の領主は、江戸へ米を送るのにこの道を使っていたこともあったのである。しかし明治になって大笹から大戸まで、わざわざまわり道をするよりも、直接に上増田村へ抜け、細野ヵ原を通って国衙・臼田・小日向・峯村から原市村へ出て中山道と合流した方が便利だったし、特に吾妻の奥地の人は、それを望んでいた。

- 道路工事は大笹側からと上増田側からと着手 峠境で合わさる。明治7年8月落成。
  板ヶ沢など街道筋となって一時繁栄した。（李弥街道）
- 坂川・中ノ条・吾妻 沓掛までの道ができるとさびれて廃道となる。
- 細野新開地の開墾につくす。
  室の木から板ヶ沢に転居。
- 大正9年の記録
  「当村新開地之儀ハ明治5年之着手ニシテ数名志ス者アリ。松本半次、鰻谷文四郎、開墾罷在候処、地租改正ニ付大政官ノ御達ニ是迄社地境内官有地ニ至ル迄無許可ニ耕宅地ニ開墾シタル分ハ……」
- 明治のはじめから明治22年村長時代にかけ、私財をなげうって地域開発につくした。

- 大正9年11月29日 東京居住 孫良太郎の家で没。享年89才。
  墓は室の木の雲門寺。戒名「真雲林晃殿大雄信寄居士位」
- 現当主 五代目 上原義功（よしかつ）（上増田甲2,352）墨器等貴重な資料が保存されてる。

箕輪窪墾田記

明治之初余赴任本縣也巡視各群經吾妻而入碓氷有邨吏上原杢彌者迎余郡界説沿道之民情過一原野曰箕輪窪稲田桑圃新會相接又見茅茨數檐僅蔽風日杢彌曰此移住民家而原籍爲富山縣住此年久今也所墾數町歩以衣食之給足支寒餓願爲管民者矣余命杢彌奬勵力作且以其爲官地稟地方廳請借地焉杢彌體余之言益展力於拓地今則編籍管民者及數戸前之原野將爲一邨矣嗟殖民爲經國之急務不待論現如上毛土地曠而人戸少苟使各人如杢彌則土地不憂不闢人戸不憂不多也然則箕輪窪之墾闢雖小且隘亦足以風勵各地杢彌之擧豈非可嘉耶項木工彌以年老辭職謁余請記其事乃書此以與之

明治二十四年秋九月　　貴族院議員従三位勲三等楫取素彦撰文

高林五峰書丹

碑の右側面に

上原杢彌建之

碑の左側面に

松本半次郎
蟹谷文四郎
金森直吉
武田亀吉
角見忠造
上原源吉
山本金次郎

箕輪窪墾田記（みのわくぼこんでんき）の読み方。

明治の初め余本県に赴任す。各郡を巡視し、吾妻を経て碓氷に入る。村吏上原杢彌という者あり。余を迎え郡界沿道の民情を説く。一原野を過ぐ、曰く箕輪窪と、稲田桑園新しく見ゆる、相接し又茅茨を見る数軒僅かに風日を蔽う。杢彌曰く、此の移住民家原籍は富山県なりと。此に住し年今に久し、所を開くこと数町歩、以て衣食の給を足し寒餓を支う。願わくば官民の爲なり、余杢彌に命じ力作を奨励し、且以て其れ官地の爲地方庁に申しここに借地を請う。杢彌余の言を体し益々力を尽くす。拓地に於て今即ち官民を編籍する者数戸に及び前の原野将に一村を為す。嗚呼、殖民は経国の急務にして待たず。目の当たりに論んず、上毛の土地広くして人戸少なし。苟も各人をして杢彌の如く土地に則り憂えず避けず人戸憂えざらしむるは多からざる也。然るに箕輪窪の開墾は小且隘と雖も亦足る各地を励まし教うるを以て。杢彌の挙、いずくんぞ嘉すべくに非ずや。大いなる杢彌年老いるを以て職を辞し余に謁し記を請う。其の事即ち此にしるし以て之を与う。

年号月日　名前等略す

語句読解

邨吏（ソンリ）	村役人
會（ミル）	見る
檐（タン）	ひさし 軒
風日（フウジツ）	風と日光
今（コニ）	この所
所墾（トコロヒラク）	開拓する
支（ササウ）	防ぎとめる
矣（イ）	句末尾に用いる助詞
展力（チカラヲノブ）	力をしるす
嗟（アア ナゲク）	嗚ああと同じ
経國（ケイコク）	国を治める
茅茨（ボウジ）	かやといばら 屋根を葺く
不ン待（マタズ）	待っていない
論現如（マノアタリニロンズ）	現わるとも
使……（シテ……セシム）	
不ン辭（サケズ）	避けない とりくむ
風（オシエ）	教化

豈非耶	イズクンゾ……ニアラズヤ 否定の不定
項 オオイナリ	「大」と同意
乃 スナワチ	即ちに同じ
書 ココニシルス ✓ 此	ここに記す
力作 リョクサク	力をつくしてはたらく。
稟 リン	申す
則 イツトリ	手本として従う
人 ジン 戸 コ	民の中家

横田桃水　童話作家

- 明治23年1月　大字小日向 横田権太郎の二男　名 長太郎
  兄 横田京二（板橋・秋間・原市小学校長 学究者）
- 経歴　国街小学校卒
  明治42年 20才 上京 豊島師範入学　大正2年3月 卒業
  府下 大正小学校・豊島師範付属小学校・淀橋小学校 その他
  小学校教育に活躍……童話の研究……童話作家として注目される。
  児童愛に燃え、話術たくみ、夢の国に誘いこむ
- 大正7年　「赤い鳥」発刊　自由画教育提唱
- 雑誌少年クラブの口演部主任・豊島講話会幹事長として童話の研究 ― 著書・講演 ラジオ放送
- 結婚 晩婚　昭2. 38才
- 昭和3年12月. 関西学事視察 東海道線藤枝駅付近 列車より転落 死亡
  「群馬県出身の童話作家として期待されながら」 39才 残念
- 著書　「桃水イソップ」「蜘蛛の命」「読方模範学習書」等
- 「童話作家 横田桃水の碑」　妙字小日向 下野坊
  昭和4年12月　豊島講話会が建立。
  （碑文）「童話の真の理解者、真の指導者は真剣なる童話の研究者であらねばならぬ」
  「秀麗なる妙義の霊気に育まれた桃水の生涯をかけての研究は童話であった」

磯貝雲峰　詩人

・慶応元年(1865)　九十九村下増田百石　内田仁八郎の三男　通称、由太郎
　母(原市の磯貝家)の里の養子となり磯貝姓となる。
・明治18年　京都同志社大 志す。　安中出身 新島襄、湯浅治郎、湯浅半月
・明治22年　同志社卒。　同級生に柏木義円・徳富蘆花
　三人中心で校内文芸誌「同志社文学」編集刊行
　名古屋高女で教鞭　(貴重な明治文学資料)
・明治28年　渡米 ウイスコンシン大学
・明治30年　病で帰朝　その秋 渋谷の祖宅で歿。享年33才
・雲峰の文学
　・柱園派の歌人池袋清風と知り 社中の俊英としてあらわれる。
　・叙情詩、史詩など新体長篇に進む
　・「大磯湾上又今年」　新体詩「知盛卿」　叙事詩「梅の咲く方」
　・評家　ドストエフスキー"罪と罰"、平田久著"伊太利建国三傑"を評、新生面開く
　・蘆花の「黒い目と茶色の目」登場の「片貝君」は雲峰である。
　・英文学に入り、訳詩得意　日本近代詩史で重要な位置を占める。
　・朝日新聞 国民之友 女学雑誌 六合雑誌などに文芸論、作品、文明批評など寄稿する。(北村透谷と並び称された文藻)
　・作品資料……半田喜作先生(雲峰研究家)
・雲峰の碑、下増田百石生家の西　高さ1.6m、横1.8m　銘石「亀石」
　甥の内田市太郎等建立。　「早蕨を折りし昔よ偲ばれて
　徳富蘇峰の筆。　恋しくなりぬふるさとの山」

村山初太郎　漢学者で名町長

・明治元年1月　松井田町酒造家 村山由平の長男 生。
・明治15年　松井田小学校(松枝小学校)卒業
　上京　啓蒙学舎、神田共立学校、東洋一致英和学校、漢学と英語を学ぶ
・明治19年　病気 退学 帰郷……独学　書を愛し(王羲之の書風)　筆致雄渾
・明治35年1月　町長となる　小学校の建築を果たす。
・明治37、38年　日露戦争　出征兵送り励ます。
　銃後の家族の慰問・救護・血兵
・　伝説にもなりそうな事実が語られるほどの国士風な人柄
　長身痩躯・長髪をなびかせていた。
・明治39年　地方利源調査委員として渡満
・明治42年4月　再び町長　郡会議員議長厂任
・大正　7年　勲七等に叙せらる。
・昭和9年9月　歿　享年68才　公平無私町政にあたり、公職30年

佐藤 タ子（たね）　教育者．佐藤学園の創設者

・明治8年（1875）3月7日　大字坂本甲930　父 佐藤 学（神職）　母 とふ．
　4男2女の末子として生まれる．
・教育一家　父 学　神職・教育者（県最初の）
　兄 兵馬・鎌輔……明治学制施行と同時に教育事業に従事．
　兄 穂三郎．正男……東京高等師範卒業 教員となる．
・明治29年 秋　結婚 21才（信州南佐久郡臼田町商人井出仰内の長男 茂一）
・明治32年2月　夫酒癖悪く 協議離婚……自活の道に進む
・明治32年　細野村細野小学校に奉職（在職1年）
・明治33年　上京．東京裁縫女学校 速成科入学（わずか4か月で卒業）
　文部省中等教員検定試験に合格．
・明治34年　静岡県見付町裁縫伝習所の講師　三島町高等女学校に奉職
　日露戦争後 教育のありかたについて感じるところあり 退職・帰郷．
・明治39年　高崎柳川町「私立裁縫女学校」……「佐藤裁縫女学校」
・明治42年　師範科設置　　敷地100坪 3教室 1職員室 本科 研究科
・昭和18年　現在地へ 1000坪 財団法人佐藤学園認可．
・昭和23年　「佐藤学園技芸学校」と改称（甲種実業学校）
・昭和36年5月　「佐藤学園高等学校」となる．
　・昭和27年11月3日　永年教育功労者として産業教育振興会長表彰
　・昭和28年5月　文部大臣表彰　78才
　・昭和28年11月22日　永眠　本県教育界に不滅の足跡を残す．
・生家　坂本西端八幡宮南　佐藤 勲（郷土史研究家）

佐藤 袈裟吉　わさび栽培の先駆者

・明治26年1月20日　大字入山　農業 仙太郎の三男
　坂本尋常小学校 2年 中退　農業に従事．
　23才　農業 佐藤鹿蔵の養子となる．
・19才　東京の農産物博覧会に出品の伊豆のわさびに心を打たれ．研究はじめる．
・わさびの研究11年　入山に適する栽培方法
・その他　シイタケ．なめこの栽培
　森式の温室栽培　朝鮮式「オンドル式」の栽培指導
　わさび協会長．　群馬県シイタケ組合理事
　群馬県碓氷峠なめこ出荷組合長等を務めた．
・昭和44年1月7日　逝去　享年 75才

新井高四郎　蚕種改良など

- 慶応2年（1866）12月3日　二軒在家島留91　新井吉右衛門・みさの長男
- 14才　群馬県立中学校（富士見村）　同級生 鈴木貫太郎（侍従長 海軍大将）
- 17才　結婚　元安中藩家老 美濃部精の長女こう
  結婚後 東京の啓蒙学舎と私立東京法学校に学ぶ　花嫁 8年待たされる。
- 明治20年5月　歩兵15連隊入営　22年除隊
- 明治27年8月　日清戦争に召集　軍曹
- 明治28年　帰郷　家業の味噌醤油醸造業のかたわら「養蚕を盛んにしよう」
  当時　1回収繭高 500貫（2000kg）　人手 50人
- 明治28年　西横野村農会長当選（明36まで）
- 明治29年　碓氷郡農会議員・農会評議員（大4まで）　碓氷社碓氷組支部長
  碓氷郡会議員に当選
- 明治32年　群馬県会議員に当選 33才（明39まで）
- 第二期県議の頃　特に養蚕に力をいれる
  よい蚕種研究　静岡伊豆方面・長野小諸方面へ
  よい桑……地質・気温・土地　八城桜塚 14ha桑園
  よい種紙　たて50cm よこ25cm 種紙
- 明治40年　満州・朝鮮の養蚕業視察員・大日本蚕糸会総裁伏見宮貞愛親王殿下 表彰
- 明治43年　帝国農会創立委員・副会長・群馬地方種蚕審査員・会長
- 大正7年　蚕種改良のため 伊仏の蚕種輸入……欧亜蚕種株式会社設立
  第一次大戦後　生糸暴落　支那大陸視察　組合製糸の全国統制・市価安定
- 大正14年11月18日　赤坂離宮御苑観菊会招待
  皇居内紅葉山御養蚕所に功労者として招待
  高四郎 詠進（皇后陛下御休憩室の屏風に詠歌）

ほそけれど国の富をもつなぐなる
かいこの糸をつくりたさばや

〈高四郎〉
- 80余種の蚕種に関する公職につく
- 総裁宮殿下より功労賞 7回
- 伏見宮・閑院宮両家のご陪食に浴す
- 奉祝2600年 皇居内天皇拝謁 従6位に叙せらる。

- 昭和19年4月25日　閑院宮殿下より恩賜賞。参内して再度拝謁。
- 昭和16年　碓氷・安中の蚕種業者による組合設立
  （……この建物 新島学園旧校舎）
- 終戦　農地解放 20余ha
- 昭和26年2月20日　87才 歿　〃10月 妻こう 歿
- 現当主　新井昭二氏（二軒在家447）農業経営

飯野喜理　日置流竹心派武人 弓の名人　号 徳泉

・明治12年2月9日　大字二軒在家1番地　旧家飯野家に生まれる。
・皇紀2600年奉祝昭和天覧試合で武芸者弓の名人として一躍有名になった人である。
・<門人帳よりの経歴>

・明治33年3月　前橋中学校卒
・明治33年4月～34年11月　明治大学在学
・明治34年11月～38年2月　兵役　退役後は弓道に専念
・大正5年4月　日置流雪荷派高藤正興先生より先師征正老の遺志により目録拝受。
・大正7年12月　阿波研造先生について竹林派修学、弓道館に入館。
・大正9年10月　弓道館にて被授与 二段
・大正10年4月　〃　〃　三段
・大正11年4月　〃　〃　四段　阿波先生より印可証拝受。弓道館理事の嘱託さる。
・大正11年10月　拝名 助教授
・大正12年7月　大日本武徳会総裁殿下より精練証下賜さる。
・大正13年7月　〃　群馬支部より名誉教師。
・大正14年11月　被授与5段　・被嘱託弓道館教授
・大正15年10月　大日本射覚院入会　教授嘱託さる
・昭和4年4月　被授与6段　大日本武徳会群馬支部弓道階級審査委員就任。
・昭和4年5月　大日本武徳会総裁宮殿下より弓道教士称号授与。
・昭和4年10月　〃　千葉支部弓道教師嘱託。
・昭和4年12月　格7段　日本射徳会師範。
・昭和7年10月　日本射徳会十哲位に入る。徳泉号拝受。師範・副会長
・昭和11年4月　8段（日本射徳会）
・昭和14年10月　厚生省体育会より明治神宮奉射指定選士
・昭和15年2月　宮城清掃館における皇紀2600年奉祝武道大会指定選士として。宮内省より指定せらる（宮内省主催）
・昭和15年4月　皇紀2600年奉祝武道大会に際し群馬支部より功労表彰さる
・昭和15年6月20日　天覧を賜わる。
　武道大会における活躍ぶりは　宮内省監修「昭和天覧試合」にあり（大日本雄弁会講談社編）
・昭和16年4月4日　大日本武徳会群馬支部常議員嘱託。弓道教師嘱託。
・昭和19年2月4日　病床に臥す。
・〃　5月15日　歿　65才
・門人200余名　松井田・安中・群馬
　遠く長野・埼玉からもおとずれた。
　門人帳には松井田町の人の名が見られる（弓が盛んだった）
・現当主は子息の飯野正氏　農業経営（二軒在家826）

● 天覧試合における
飯野喜理の活躍ぶり

「宮内省監修
昭和天覧試合」から抜粋
（大日本雄辯会講談社編）

「一番射手の飯野喜理選士の射は、一言にしていえば荒削りである。六十二歳、還暦を終っているが、気骨壮者の如く、何の飾りもなく、何の趣もなく、農人としての彼の生活をそのまま露骨に表現している。彼の射に底力があるのは、上州の一農人として、三山の吹颪（おろし）の中に育（はぐく）まれた強さである。他の多くの選士の射を都会的にすれば、彼の射は地方的、田園的である。彼は、この底力を発揮し、甲矢の欠所を乙矢において補い、一中者となって第二回演武に臨んだのである。恐るべき底力は、いよいよその真価を発揮し、申し分のない良射、矢は正しくあたったのである。快なるかな、飯野選士。六十二歳の初老をもって、第三回演武まで居残ったのは、彼の精神力はいうまでもなく、同時に、彼の肉体力の賜物である。

彼は第一回に於て十一位。第二回において八位。順次、底力を発揮してきたのであるが、果たして、天覧にのこり得るや否や、望みをつなぐことは、ややむずかしかった。

だが、同列の選士、みな後退した以上彼としては、ここぞと振い立って、体力に物をいわせ、よっぴいた甲矢（はや）は、射心射形、ともに良く、矢はあたる。乙矢に至って、飯野の底力は、いよいよここぞと、更に屈する色もなく、悠々と引き絞ったが、此度は、離に於いて多少の無理があった。しかし矢は中る。恐るべき体力といわねばならない。

第三回演武を終って、得点、飯野一八九八点、遂に、第三位に坐することとなった。」

ここにおいて、天覧を仰ぐ三選士の中に選ばれたのである。かくして、二名の九州男子の間に伍して、一名の関東男子、厳として在り、しかも六十二歳翁、天覧の光栄を手にしたのである。

天覧試合は、三十三歳、五十三歳の壮年者の間に伍し、最後までよく耐えて、天覧奉射に立った。気骨、まことに壮とすべし。だが三番射手として、射位にたった際には、感激の余りであろう、「筈（はず）こぼれ」の矢があり、為に恐懼して、引かず。やんぬるかな。折角の天覧試合にのぞみ、心外であったに相違ない。「試心の不徹底」と自から告白しているところから推せば、自ら覚り自ら警していることが判る。得点五〇九点で第三位。

◆ 山田城之助　　坪土塩　天保元年（1830）勇吉の長男
博徒の系統　新井一家（小野山信五郎）の跡目を継ぐ
当時 中山道の坂本・横川・松井田の宿場を中心として 現金 絶頂の波にのった賭博が流行した。農村部にもこの風潮が影響して、まじめに農業することをきらい 博奕に身を持ちくずすものが多かった。　城之助もその一人。
群馬事件（明治17年5月13日）
民間人だけではどうにもならないので暴力団のやくざ集団を買収して中核隊とした。城之助 選ばれた。
群馬事件の首謀者（田口・三浦）を土塩にかくまった。
警察にマーク。明治18年6月30日 警官に襲われ殺される。
（56才）

◆ 関 綱吉　横川博徒 別名 横川三之助
横川農家 関倉右衛門の三男
群馬事件の首謀者に頼まれ山田城之助とともに多勢のやくざを集めて参加協力した。（二人共 明治17年の自由民権運動に大きな役割を受け持った。）
城之助の死後は横川村において博徒としての生活に入り 三之助として反社会集団として晩年を迎えた。
明治37年5月31日　歿．67才．

上原虎重　元毎日新聞重役

・大字北野牧の大工職 上原佐五郎の長男　明治23年生.
・逸話　負けず嫌い　がき大将　学問好き　成績最優秀
　明38. 坂本尋常小学校高等科卒
　・安中中学校入学 一年とびこして2年に入学　家庭の都合で退学
　・日曜日 軽井沢へ 英語を学ぶ
　・上京 苦学　・毎日新聞の論文に応募
・大正6年5月　毎日新聞入社　新聞記者　外国部長　英文主幹　編集主幹
　20年たらずで本社取締役（昭21.2 退社）
・生涯独身　心に秘めた人がいた…… 若き日藤原あき
・昭和27年　賢職逝（大阪市北区堂島の寓居で病床へあきが見舞う）
　2月2日　歿　社内で「明治最後の男」とまでいわれた.
・徳島県選出の元参議員紅葉みつは実妹である.

渡辺三郎　鉄鋼界の先進

・日本特殊鋼KKの今日を築いた人　戦前中－陸海軍兵器の主要部品
　戦後－自動車部品
・明治13年12月2日 大字松井田472 資産家 大河原新七の三男
・松井田小 → 旧制前橋中学校 → 東京帝国大学(東大)採鉱冶金学専攻.
・古河鉱業足尾銅山に就職(三年)　新しい採鉱機械発明(大河原式採鉱機)
・明治41年6月 結婚 横浜市渡辺銀行頭取渡辺福三郎 三女「那べ」
　その後 ドイツへ. アーヘンの大学で採鉱冶金学を学ぶ.
　さらに アメリカに遊学　世界的鋼の权威となる.
・大正のはじめ.　日本特殊合資会社創設（養父福三郎と資本金5万円）
　当初 さびない鋼材(刃物)の生産
　・昭12. 合資 → 株式会社…… 取締役社長
　・大東亜戦争はじまる. 陸海軍高く評価…… 知識 技術 材質 精密. 生産力
　・この松井田から 特殊鋼KKへ. 多数が働きにいった.
・戦後　一時経営不振…… 自動車工業に着目 部品生産へ
　現在 東京都大田区大森1-6475 大工場 30億の資本
・三郎　工学博士　勲五等　特殊鋼の研究と生産　昭和26年 他界 73才
　生前 郷土を愛し. 妙義山の大額 社長室に飾る.
　現在 同社は 甥の渡辺正太郎が継いでいる.
・一方 妹　東京ガスの重役 栄之助.　松井田町長をした 源五郎(姪の夫)
　松井田銀行頭取 豊太郎(長兄). 勲六等 多満子(養母) など
・現在生家は 源五郎の長女清子の夫 久夫(和歌山県土井家). 長男 新太郎がついでいる.

武井理三郎　日銀で活躍.

- 明治20年2月21日　大字坂本328　武井家(米屋)　武井兼次郎・まさの間に生.
- 坂本小学校 尋常科4年 高等科4年　安中中学二年に入学
- 明治39年. 東京高等商業学校(一橋大学)入学　経済・商業
- 明治43年　日本銀行入行　日銀マンスタート.
- 大正8年　ニューヨーク日銀監督役に抜てき.
- 大正11年　帰国
- 昭和2年　ニューヨーク日銀へ(昭和6年7月まで)
- 帰国後　小樽. 神戸. 名古屋支店長　大阪支店長・日本銀行理事.
- 昭和17年　南方開発金庫副総裁
- 終戦　解任. 追放　安中に転居居住.
- 　　・新島学園の創立　青少年の教育に尽力.
　　・東邦亜鉛KK相談役 監査役
- 昭和29年12月　貯蓄増強中央委員会第三代会長となり東京都目黒区駒場へ転居.
- 昭和32年8月1日　病　故人となる　享年71才.
- 安中へ転居したのは柏木牧師にひかれた. 妻要の実家が安中谷津の中村家.
　現在 娘夫婦は目黒区駒場にいる.

小板橋又治　実業家・政治家

- 明治22年11月20日　大字新堀328 小板橋左太郎の二男
- 大正4年　26才　碓氷製練株式会社(現碓氷製糸)創立
　以来 実業界に業績を残し. 群馬県政・松井田町政に足跡を残す.
- 略歴
　・松井田絹糸紡織株式会社取締役(大正8)・碓氷印刷KK取締役(大正9年)
　・本庄製糸KK取締役社長(大正10年)
- 大正14年　松井田町議会議員 松井田町助役.・昭和9年 松井田町長となる.
　・上毛無尽KK専務取締役(昭和11)・松井田倉庫KK取締役社長(昭和15)
- 昭和11年　群馬県会議員となる 在職12年
- 昭和17年　松井田高等学校設立に対して紺綬褒章拝受
　・大生相互銀行取締・群馬農業会理事. 日本蚕糸製造KK参与取締役社長(5年)
　・高崎製紙KK監査役. 日本中央蚕糸業会議員. 日本製糸協会理事.
　・関東いすゞKK取締役. 石田工業KK取締役. 群馬シルクKK取締役会長
　・東洋生糸KK. 高崎製紙KK. 群馬蚕糸製造KK会長. 金銭債務調停委員 など
- 昭和30年　地方自治功労・蚕糸業功労により藍綬褒章拝受
- 昭和31年　合併松井田町長.
- 昭和40年　自治功労により勲五等に叙せらる. 瑞宝章授与.・昭43. 園遊会へ.
- 昭和46年　補陀寺 頌徳碑建立　・昭和51年2月4日 没 86才.

中島長吉　教育者　　東人

はじめに、中島長吉の功績を紹介しておこう。

日清戦争後の明治二十八年四月十七日に締結された日清講和条約に基づき、台湾及び澎湖島が日本の版図となった。と同時に、日本政府は台湾教育の基礎を築くため、明治二十八年六月十八日、元東京師範学校長であった伊澤修二を中心に、台北郊外の街、芝山巌の丘の廟で、学堂寺小屋教室を開き日本教育を始めた。特に、楫取道明(山口県)、関口長太郎(愛知県)、中島長吉(群馬県松井田)、桂金太郎(東京都)、井原順之助(山口県)、平井数馬(熊本県)の六人がその教授にあたった。

当時、台湾は日本の領有に帰する事に対し反対派の抵抗があり、戦争状態の中での教育事始めであり、炎暑と厳しい風土の地台湾で、しかも、言葉は通ぜず、漢字の筆談によって現地人(台湾人)の子弟を集めての教育をした事実は、人間のなし得る力の限界であったと思われるが、この苦心惨胆の努力の結果が現地人に日本語を普及する原点となったわけである。

しかるに、半年後の明治二十九年一月元旦土匪の蜂起により、六人の教師が虐殺され、非業の最後をとげるという事件が起きた。以後、その犠牲になった六人は、芝山巌神社の祭神なとり、六士先生と崇められ、その功績はたたえられたのである。

中島　長吉

- 明治4年1月1日
  大字五料 坂の上
  中島菊松 の次男生
- 明治9年　柏屋呉服店へ奉公　数日でやめる
- 明治10年 8才 五料小学校入学　18日で初級卒業
  11才で卒、柔道・剣道
- 明治16年12才
  南牧小学校助教員
  (2年半)
- 明治19年3月
  東京に出奔・日本社寺局長の丸山作楽の書生となる
- 明治21年9月
  東京府立師範学校入学
- 明治25年4月
  東京富士見小学校訓導
  六週間現役兵
  支那語階梯上下
  清国軍備総覧
  北清里程要覧
  朝鮮地図、支那地図、征清軍歌集 など出版
- 明治27年3月　東京神田一ッ橋 日清協会設立
- 明治27年12月　近衛師団歩兵第四連隊付 通訳として活躍.
- 明治28年5月　渡台の途につく. 陸軍省雇のまま学務部勤務となる.
- 明治28年7月18日　辞令を受け、直ちに芝山巌学堂に赴任. 国語教育に力をつくす.
  (明治28年12月20日付 伊澤修二先生の書信)
- 明治29年1月1日　台湾北部一帯に蜂起した土匪は台北城を包囲.
  中島ら六人は総督府の新年祝賀に参列するため台北に向かっていたが、
  土匪襲来し、獅子奮迅したが衆寡敵せずついに斬首されたのである.
  時に25才
- 中島家代々墓(国道18号の下をくぐって、五料坂の上) 銀杏の大木下
  ここに中島長吉の墓石. 「徳鄰院蘭台長香居士」
  墓石のうしろに中島長吉の事歴が刻まれている.
- 現 中島家の当主は 中島 栄(元教育委員・会社役員)(現住所 大字五料319)
  中島長吉の貴重な写真や記録が現存している.

小山長四郎　経済人　実業家

- 高崎市 名門蠟山家に生まれる。　幼にして松井田の小山家を継ぐ
  11人兄弟の4男。　兄 蠟山政道（お茶ノ水女子大学長）など
  小山家 酒造業。　.高崎市に美峰酒類株式会社・群馬酒造株式会社創立
  戦後30有余年 花形実業家…… 社会、公共、福祉、文化、教育等に功績を残す。
- 略歴
  - 昭16. 美峰酒類KK創立社長　昭19. 西毛酒造KK創立社長　群馬酒造組合幹事等。
  - 昭31. 群馬県労働問題懇話会使用者側委員 11年間
  - 昭35～46 高経大理事　・昭37～54 上毛新聞社取締役
  - 昭37～51 群馬県固定資産審議会々長　・昭38～54 群馬県生産性本部長
  - 昭38～55 群馬県文学会議評論随筆選考委員
  - 昭38～48 群馬交響団副会長　・昭38～46 群馬県産業教育振興会々長
  - 昭48～54 群馬県公安委員　・昭48～56 国立コロニー協力会々長
  - その他　・群馬県産業教育振興会々長　・高崎商工会議所会頭（群馬県・関東）
    ・群馬県音楽文化連盟理事長　・群馬県文化財保護協会副会長
    ・群馬テレビKK取締役　・自由民主党群馬支部連合会副会長
    ・群馬県給営者協会常任理事　・群馬県更生保護協会副会長　その他。
- 功績に対して
  - 昭和39年 群馬県政功労者表彰　・昭和47年 勲四等瑞宝章受賞
  - 昭和56年 正五位勲三等瑞宝章受賞
- 昭和56年4月23日 歿　享年 79才。

髙見澤みねじ　峠の釜めし

- 大正5年12月2日 山梨県都留郡丹波山村の田中実の三女。
- 昭14.3. 大妻女子大学卒。　・昭和20年12月16日 荻野屋三代目髙見澤一重と結婚。
- 昭和26年 夫（一重）に先立たれ、四代目店主となる
- 「おぎのや」　明治18年10月15日開業 全国二番目に駅弁販売の老舗。
  「おむすび2個とたくあん」竹の皮 値段1包5銭　竹の皮→経木の折箱
  明21. 山陽本線 幕の内弁当。　明23. 東北本線 すし弁当 などできる
- 昭和33年 「峠の釜めし」第一号発売。（あたたかい家庭的な楽しい弁当……）
  地方色豊か、益子焼の土釜好評
  文芸春秋 目耳コラムに紹介…マスコミ報道……「駅弁の横綱」となる。
  皇室ご用達（天皇・皇太子ご一家 皇族…）
- 現在 構内営業、姉妹店 横川国道、諏訪、高崎駅ビル、軽井沢等に開設営業。
- 昭36. 高鉄車内販売KK常務取締役。　昭39. 高鉄構内営業組合副組合長。
  昭44. 国鉄構内営業中央会高崎支部副支部長 など
- 昭和54年 社長を辞し、取締役会長　「感謝」「和顔」「誠実」の社是
- 昭和58年9月17日 他界 67才　現当主 髙見澤忠顕（おぎのや社長）

小峯柳多　政治家（国会議員）

- 明治41年9月3日　大字松井田南町 小峯勝重郎の長男．母たせ．
- 大正10年3月　松井田小学校卒．　4月 高崎商業学校入学
- 大正15年　高崎商業卒　東京商科大学商業専門部入学　昭4．卒
- 昭和4年4月　大阪野村合名会社入社．
- 昭和6年4月　野村銀行へ出向．　・昭和13年 理化学興業KK勤務
  その後は理研系各社役員歴任．
- 昭和20年8月　終戦により退社．政界に志す．
- 昭和21年4月　群馬県第三区より衆議院議員 立候補 当選．
  昭和28年3月までに 四回当選　その後 落選　実業界へ
- 昭和42年1月　東京都第四区より再度立候補当選　昭和45年選で再度当選
  経済安定本部参与官．経済企画本部政務次官．運輸常任委員長
  衆議院商工常任委員長．予算委員会理事．大蔵委員会理事．
  自民党政務調査会副会長．中小企業問題委員会役員 など
- 書道家　金子鷗亭に師事．　日本書道連盟顧問．
  民謡 佐渡おけさ 相川音頭 黒田節 など得意
- 著書　「工業進路の発見」「新しい火連」 その他 経済論文多数
- 昭和49年5月29日　歿．（東京都渋谷区代々木）享年65才．
  東京都小平霊園（松源寺）に眠る．
  - 娘夫婦 三鷹市井の頭に在住

メモ．